

# 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



September

S	M	T	W	T	F	S
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

September 2023 vol.113

## ◆ 博物館明治村

所在地：犬山市字内山

交通：名鉄犬山線「犬山」駅から岐阜バス明治村線

先月は、大正 12(1923) 年 9 月 1 日に発生した関東大震災 100 年にちなみ、名古屋市内にある関東大震災の史跡を巡るまちあるきルートを紹介しました。今月は、明治・大正の建築や歴史を伝える犬山市の博物館明治村から、関東大震災に関連した施設や構造物を紹介します。

明治村を代表する建造物のひとつ、帝国ホテル（明治村 5 丁目 67）は、関東大震災と非常に関連の深い施設です。帝国ホテルは、20 世紀建築界の巨匠フランク・ロイド・ライトの設計により、大正 12 年に東京・日比谷に開業しました。ホテルの完成披露式が予定されていた、まさにその日に、関東大震災が発生したのです。

火災に強い鉄筋コンクリート造であった帝国ホテルは、周辺の多くの建物が焼失する中、倒壊や延焼を免れました。地震の後には、日本赤十字社が臨時救護部出張所と呼ばれる組織を作り、海外からの援助物資や食料を受け入れるための拠点となったほか、被災した報道機関、各国の駐日大使館、主要企業の臨時事務所として機能するなど、被災者の救援に活躍しました。その後は、日本を代表するホテルのひとつとして親しまれ、昭和 42(1967) 年の新館への建替まで、現役のホテルとしての機能を果たしました。

昭和 51(1976) 年に明治村に移築されたのは、客室棟の中央玄関部分で、平成 16 年からは国の登録有形文化財に指定されています。



帝国ホテル（中央玄関）

大震災当時、隅田川にかかる橋の多くは焼け落ちましたが、残ったのが隅田川新大橋（明治村 5 丁目 55）です。当時の日本橋区浜町から深川区安宅町間を結んだ新大橋は、新古典様式やアールヌーボー調が融合した鉄橋で、大正元(1912) 年に開通しました。

関東大震災では、落ちずに残った新大橋だけで、約 1 万人の命が救われたとされ、「人助け橋」とも呼ばれました。当時、避難を誘導していた警察官が、荷物に火が付けば橋に火が付くということで、機転を利かせて荷物を隅田川に捨てさせたエピソードが残されており、現在の新大橋の西側に建てられた記念碑にも、このことが記されています。

明治村には、架け替えにあたり昭和 50(1975) 年に移築され、日本橋区浜町側に架かっていた約 23m の部分を見ることができます。平成 16 年からは国の登録有形文化財に指定されています。



隅田川新大橋

震災当時、渋谷区広尾にあった日本赤十字社中央病院（明治村 4 丁目 35）では、地震の後、最前線で被災者の救護が行われました。煉瓦造の本館は本震でほとんど全潰しますが、鉄筋コンクリート造の新外来診療所や木造の病棟は被害を免れました。患者や職員にも死傷者はなく、火災地域と離れていたことから延焼も免れ、傷病者の収容救護に従事することができたとのことです。

明治村には昭和 49(1974) 年に移築され、関東大震災後の救護活動をいまに伝えています。

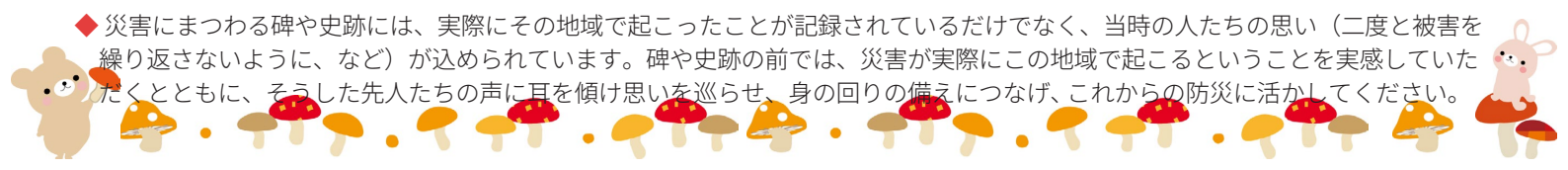


日本赤十字社中央病院病棟



明治村内の地図は明治村 HP (<https://www.meijimura.com/area/>) をご覧ください。

◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたかとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



明治村には、建造物だけではなく、明治以来の近代産業やインフラを支えた機械も展示されています。関東大震災で、地震後、早期の水道の復旧に貢献したのがのくち式渦巻ポンプ(鉄道寮新橋工場・機械館 明治村4丁目44)です。

のくち式渦巻ポンプは、東京帝国大学教授の井口在屋<sup>いのくちありや</sup>が発明したポンプで、井口の教え子の畠山一清が製品化しました。関東大震災当時、東京の水道の源となっていたのは、新宿にあった淀橋浄水場でしたが、浄水場へ至る水路は開渠で引かれた1本の水路(新水路)に頼っていました。大正10(1921)年12月、茨城県で発生した地震により、新水路の一部が決壊し、3日間にわたり東京市全市で断水となりました。新水路の脆弱性を懸念した畠山は、玉川上水から直接、淀橋浄水場に水を送れるよう、自費でのくち式渦巻ポンプ8台を提供し、予備設備を造ったのです。

2年後、関東大震災が発生、地震により新水路は複数箇所が決壊し、浄水場へ水が届かなくなりますが、



のくち式渦巻ポンプ  
写真提供(4枚共):  
(一社)中部地域づくり協会

予備設備として設置されていたのくち式渦巻ポンプにより、玉川上水から淀橋浄水場に水が送られ、地震翌日の9月2日午後には、水道が復活しました。

明治村にあるのくち式渦巻ポンプは、東京市民の命を守ったポンプと同型のもので、昭和40年代まで千葉県の桁沼揚水機場で用いられていました。のくち式渦巻ポンプとしては、現存する最古のものとされ、平成19(2007)年に日本機械学会より、機械遺産第9号に認定されています。

明治村には、主に明治時代に建てられた建造物が60件以上保存・展示されていますが、このうち、24件が関東大震災の被災地から移築されたものです。関東大震災100年のこの機に、ぜひ明治村に足を運んでいただき、明治の建物や文化を楽しみながら、関東大震災を学ぶ視点も加え、災害への備えに生かしてください。

災と Seeing (24) 関東大震災と明治村 ([http://www.cck-chubusaigai.jp/sai\\_seeing/detail\\_24.html](http://www.cck-chubusaigai.jp/sai_seeing/detail_24.html)) もぜひ併せてご覧ください。

## ★ 謎解きシリーズ インペリアルホテル 270

関東大震災当日に完成披露式が予定されていた帝国ホテル。地震と同じく、今年で竣工100年を迎えます。

明治村の帝国ホテルでは、竣工100年を記念し、「謎解きシリーズ インペリアルホテル 270～このホテルには、部屋の数だけ秘密がある～」が実施されます。第1弾の『ROOM No.101 ドラマチック謎解きゲーム「東洋の宝石と消えたツアーガイド」編』は、「インペリアルホテル」の101号室を利用する宿泊客として手がかりをもとに村内を巡り、宿泊室に用意された「幻のミステリーツアー」の謎を解き明かす内容で、8月5日から始まっています。9月1日からは第2弾、第3弾も始まる予定です。

明治村の建造物と合わせて、ぜひお楽しみください。



### ～鉄道で巡る～

明治村内4丁目のSL  
なごや駅から5丁目の  
SLとうきょう駅間では、明治時代製造のSL  
が客車を牽引して走行しています。すべての車両が100年以上の時を経たもので、実際に走行・乗車できるのは世界的にも珍しく、貴重な時間を体験できます。



明治村 HP より

村内では路面電車の京都市電も運行しており、こちらでも明治時代製造の車両に乗車することができます。

### ●ブレイクタイム●

#### ♪ 日本庭園有楽苑

犬山城の東にある日本庭園有楽苑は、織田信長の実弟・織田有楽斎にちなんだ庭園です。有楽斎が京都の建仁寺に創建した茶室「如庵」は、昭和11(1936)年に国宝の指定を受けた茶道文化史上貴重な遺構で、昭和47(1972)年に名古屋鉄道により現在の地へ移築され、如庵が京都にあった時代の庭園を可能な限り再現した日本庭園有楽苑が整備されました。茶会のために新築された茶室「弘庵」では、有楽風という和菓子とともに、犬山焼の茶器でお茶をいただくことができます。



犬山市観光協会 HP より

◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、[gensaisan2014@gmail.com](mailto:gensaisan2014@gmail.com) まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行: 減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年9月)

